

会報

2024年 秋号

花のチカラ 緑のココロ

園芸福祉シンポジウムと総会の報告

今年7月の全国平均気温は、126年前に統計を取り始めて最も暑く、平均より2.16度も高かったそうです。そう言われれば、去年や一昨年より暑さがこたえるのは、歳を重ねたせいだけでなかったと少しホッとしています。人間が辛いのですから、動物や植物も辛いはず。植物は自ら動けませんから、庭の草木も暑さ（夜温を含め）に強いものに変えていく必要もありそうです。

最近、ウェルビーイング（Well-being）という言葉を見聞きする機会が増えました。協会設立当初から唱えてきた考え方に社会が変わってきたようです。少子高齢化社会では、生涯現役や全ての人が役割を担う園芸福祉の役割は大きいはず。皆さんの活動の一つ一つがあるから社会に訴えていけるのです。



さて、まだ爽やかな5月19日に、静岡県浜松市の浜名湖花博2024会場内で「第20回園芸福祉シンポジウム in 浜松」を静岡県、浜松市、NPO しずおかユニバーサル園芸ネットワークと共催で開催し、200名以上の参加をいただきました。以前の会報でも書きましたが、今年は浜名湖花博が開催されて20年です。静岡県の園芸福祉（静岡ではユニバーサル園芸と称しています）は、その花博を契機に官民、農業・福祉分野の連携で推進されました。このシンポジウムは、20年の実績を踏まえ今後に活かすために開催しました。シンポジウムの基調講演とパネルディスカッションのコーディネーターを協会の吉長理事長が行い、パネラーから静岡県内の活動事例報告と課題、今後の方針などが話し合われました。

また、午後には、園内の一画に新しく整備された「ユニバーサルガーデン（3ページに見学記）」の設計者による案内もあり、花博のレガシーを守り育てる「静岡」の姿勢を感じた一日でした。前日（18日）の午後には、浜松駅前の会議室において協会の通常総会を開催し、原案通り承認されました。その後、夕食を兼ねて浜松餃子の店で懇親交流会を二十数名で行いました。来年の総会と園芸福祉シンポジウムは、餃子つながりという訳ではありませんが、栃木県宇都宮市を予定しております。日程や内容は、確定後改めてご連絡いたします。 （事務局長 粕谷 芳則）

初級園芸福祉士の自己紹介

本年度は、新たに約 170 名の方々が登録されました。その中から一部をご紹介します。／

趣味は園芸で毎年無農薬の野菜を育てて味わうこと、四季折々の植物を鑑賞することが恒例の楽しみになっています。他では高齢者施設で園芸に携わるボランティアをしています。幅広い人達との交流は様々な発見もあってとても楽しみながら参加しています。住んでいる地方が雪国なので活動できる期間が短く残念ですが、秋は鮭釣り、冬はスキーと何かしら自然の楽しみを見つけながら日々生活しているアウトドア派な私です。今回の試験に合格できて嬉しいです。これからどうぞよろしくお願いいたします。

(北海道 / 50 代)

恵泉女学園大学で園芸について学んでいるなかで園芸福祉に出会いました。園芸は人が生きることの基本を教えてください。植物と向き合い、見つめ触れることで、自然体の自分に還り、本当の自分に気づくことができるのではないかと思います。そんな園芸や植物の魅力を周りの人たちに伝え、私自身も共に楽しんでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

(長野県 / 20 代)

園芸店で 20 年勤務しています。植物を通じて、役に立てることがないか、考えています。情報等ありましたら教えてください。宜しくお願いします。

(高知県 / 40 代)

フラワーアレンジメント歴約 20 年。寄せ植えクラブ在籍中。ガーデニング歴約 30 年。私は「花育」に関心があり、幸い令和 6 年度 4 月から下野市役所内学童保育で働く事になり、小学生達との花壇作りやクラフト活動のお手伝いができそうです。又、子育て中の母子が利用する児童館での活動のお手伝いもしてほしいといわれております。初年度なので何かと不安もありますが、欲張らずに挑戦して行きたいと思います。

(茨城県 / 60 代)

東京都から静岡県菊川市に転居して 3 年。関心のある事からは、植物や環境で、ガーデン巡りが大好きです。コミュニティーガーデンなどの花と緑に関わる活動に参加したことがあります。福祉分野の経験はありません。よろしくお願いいたします。

(静岡県 / 50 代)

鈴鹿医療科学大学医療福祉学科で教員をしております。大学の千代崎キャンパス内に「SUMS 自然農園」を 2022 年度に設置して、園芸福祉活動を学生と地域の皆様で実践しております。今後もキャンパス農園活動を展開していきますので、よろしくお願い致します。

(三重県 / 50 代)

不登校支援を中心とした子どもがほっと心を休めることのできる居場所を作っています。おひさまの光を浴びて、土の手ざわり、花の香り、色どり、生命を感じられるよう、活動しています。

(福岡県 / 50 代)

今までは自宅の花壇を利用してガーデニングを楽しんできました。近所の庭の花や、公園などに植えてある花を見て気持ちが明るくなったりしましたので花の力を感じました。施設に入所している母が花の水やりを仕事にしていたり、高齢者にもできることがある事に気づきました。花を通して皆で楽しめて元気になれることに携わることができれば良いなと思っています。

(石川県 / 50 代)

岡山県南の岡南飛行場の近くに住んでいます。仕事が一段落したタイミングで園芸に興味を持ちました。猫のひたい程の狭い庭に、バラやクレマチス、宿根草や一年草と、様々なお花に囲まれて暮らしています。年々、大きくなる植物の植え替えや、株分け、挿し木や挿し芽など、一日一日勉強です。これからも、よろしくお願いいたします。

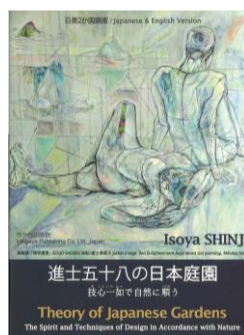
(岡山県 / 60 代)

東海大学農学部応用植物科学科 4 年です。私は、将来、農業高校の教員になりたいと考えています。園芸福祉士になり、多くの高校生に園芸の魅力を伝えるときともに、高校のカリキュラムに複合して、熊本県での園芸福祉士を増やしたいと考えております。私が架け橋になれるように、日々精進していきたいと思っています。

(熊本県 / 20 代)



おすすめの本



進士五十八の日本庭園 技心一如で自然に順う 日英 2 か国語版

進士五十八著 市ヶ谷出版社 ¥3,300 税込み

協会長の進士五十八氏の最新著書。目次立ては大きく①庭園と日本庭園の概論—思想と歴史、②日本庭園の空間構成と技法、③日本庭園 30 ヶ所の鑑賞ポイントの 3 つに分かれている。日本庭園の特質はサブタイトルにあるように「自然に順う」、つまり、大自然を学習し模倣する「自然学習性」であることが良く分かる。なお、日本語から英語への翻訳は実の娘とカナダ人の義理の息子によるもの。直訳ではなく日本と英語圏の文化的背景を考慮しながら「大局からの合理的説明」に翻訳されているのが良い。当協会監事、岐阜県立国際園芸アカデミー教授 / 相田明さんからのご紹介です。

一茶繚乱 俳人小林一茶と江戸の園芸文化 賀来宏和著 八坂書房 ¥7,480 税込み

小林一茶の残した二万句に及ぶ発句は、当時、世界最高の水準にあったわが国の園芸文化が成熟期を迎え、庶民の間にも園芸が大流行していた様子を如実に物語っている。

「梅」「桜」「朝顔」「菊」を代表として四季折々の観賞植物を挙げ、数々の文献を駆使しながら、一茶の発句を通して庶民への園芸の普及を活写することにより、わが国園芸文化史の一面に光をあてた画期的な一書！



「おぶせオープンガーデン」訪問記

岐阜県立国際園芸アカデミー 教授 相田 明

オープンガーデンを訪問する際、アポイントメントを取り訪問する時と、一般の来訪者と同様にガイドブックやマップを片手に訪問する時があります。今回は時間がよめない旅でしたので、後者の方法で訪問をしました。

2000年に始まったおぶせオープンガーデンは、行政がオープンガーデンの開催を誘導する「行政誘導型」のオープンガーデンの代表です。ここの特徴としては「おぶせオープンガーデン」の看板が庭先に掲示してある時のみ訪問できるという仕組みがあることです。今回2023年10月に訪問、2000年7月に論文調査で訪問して以来ですので、なんと23年ぶりです。小布施ハイウェイオアシスに車を止め、徒歩にて訪問開始。まずは看板の設置



してある和風の庭を訪問。奥の作業場でブドウの出荷準備をしているところをお邪魔すると「うちのような日本庭園より花の庭が人気あるのでは？あまりオープンガーデンで来る人はいない」とのこと。近隣のオープンガーデンを訪問後、車で移動、昼食を取るためフランス食堂「ヴァンヴェール」（ここもオープンガーデンに登録）でお話を聞く。「ここにオープンガーデンが目的で来る人はいませんね」との返答でしたが、近隣のオープンガーデンを紹介して頂いた。

今回、マップにあった24庭園を訪問しましたが、看板ありが6庭園、「おそれいます。本日はご遠慮ください」という看板が1庭園でした。看板を設置していない庭が多く、来訪者にとっては残念でありました。活動を長続きさせるには、庭園を公開するにあたって「自然体」（無理をしない）であることも重要だと感じました。



「浜名湖ガーデンパーク（浜名湖花博 2024 会場）」見学記

事務局長 粕谷 芳則

標記公園で開催した「園芸福祉シンポジウム」終了後に園内を散策したが、時折雨が降るあいにくの天気でごく一部しか見る事ができませんでした。しかし、園内一画に新しく整備された「ユニバーサルガーデン」は、設計者の阿部容子さんの説明付きで見学できたので紹介させていただきます。ガーデンのコンセプトは、いただいたパンフレットによると「植物は色や香りなどで人の五感を刺激し、心身にいやしや好影響をもたらします。このガーデンは、「香りのエリア」「触れるエリア」「食のエリア」「色のエリア」「音のエリア」の5つのゾーンに分かれており、植物がもたらすさまざまなセラピー効果が体感できるようデザインされています。（以下略）」となっています。



説明を聞きながら見学



車椅子を押して上がる階段

実際の施設は、車椅子が通れる2本の園路が並行し、1本は緩やかな高低差のあるスラローム、もう1本は平坦な直線で両端がつながり回遊することができます。細長い敷地の長手は50m以上あり、園路脇に芝生のベンチやレイズドベッドが配され、車椅子を押して上げられる階段（段差を14.5cmで1段の奥行きを120cmとり1段毎に車椅子が水平に安定する）、雑草取りの負担を植栽段階で減らす防草シートの埋設、5つのエリアの植物の選定や雨水の処理など、園芸福祉の庭を考えるアイデアをたくさん見ることができました。常設なので、機会を設け行かれることをお勧めします。



認定校紹介

北海道旭川農業高等学校

教諭 柳沼 和雅

北海道旭川農業高等学校生活科学科では農業と農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成を目標に、草花を中心に知識や技術の習得に取り組んでいます。本学科は初級園芸福祉士に認定されるため2年生から学校設定科目「園芸セラピー」において1年をとおして、園芸福祉の実践プログラムの作成ができるように、知識の定着や技術習得を目指しています。そして、3年生になると認定された初級園芸福祉士の資格を活用し、地域との交流学习に取り組めます。特に日本園芸福祉普及協会が目指す園芸福祉である「仲間づくり、植物と接して、幸せになろう」を目指し、自分たちが栽培



幼稚園交流の様子

した花苗を使用して、交流学习を実践しています。2年生では、地域幼稚園とのイチゴの定植交流を行っています。交流の際にイチゴの定植方法を紙芝居で伝えるなど子どもにも分かりやすく、そして興味をもってもらえるようにプログラムを考えています。3年生では、地域福祉施設との交流を行っており、花壇造成や寄せ植え交流などを行うために施設に訪問し、普段の生活では草花と触れあう機会が少ない方々に植物と接してもらう機会を作ることができるように園芸福祉士として活動に取り組んでいます。今後も初級園芸福祉士として地域との繋がりを大切にし、地域に根ざした学校となるべく草花を活用し、交流を続けていきます。



福祉施設の花壇造成をしている様子

おすすめの一冊

会報で紹介させていただくおすすめの本を募集しています。みなさんのおすすめの一冊をぜひお知らせください。ただし、園芸福祉に関連する、あるいは関連すると思われる本に限らせていただきます。お待ちしております！！

正会員を募集しています

日本園芸福祉普及協会は、NPO法人です。NPO法人は、正会員で成り立つ組織です。協会の正会員の内70%以上の方は、初級園芸福祉士の資格を取られた後に正会員になられた方達です。多くの方に正会員になっていただき、協会運営にお力添えをお願いいたします。

メールマガジン配信中！

全国各地の活動情報、イベント、講習会など園芸福祉に関する情報を配信しています。登録は無料！
登録方法は、件名に「登録希望」、本文に氏名と認定登録番号を明記の上、下記までご送信ください。
送信いただいたメールアドレスを登録させていただきます。
登録完了後、「ご登録完了メール」をお送りいたしますので、「@engeifukusi.com」からのメールが受信できるよう設定をお願いいたします。
送信先 kyoukai@engeifukusi.com

NPO法人日本園芸福祉普及協会

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 4-3-11

DK 共同ビル 9階

TEL:03-6910-3045 FAX:03-6910-3046

E-mail: kyoukai@engeifukusi.com

URL: <http://www.engeifukusi.com/>

